

刊行にあたって

編集委員長
玉野 和志

せたがや自治政策研究所の活動の一環として、2008年度より刊行しております学術機関誌『都市社会研究』もおかげさまで第10号を刊行することとなりました。特集に寄稿していただいた先生方をはじめとして、論文、研究ノート、活動報告に投稿いただいた皆様のお陰によるものと存じます。また、編集にご協力いただいた編集委員会の委員や査読を担当された方々、編集委員会をサポートしていただいている事務局にも、心より厚く御礼申し上げます。

本誌刊行の目的は、一つには学術研究の発表・発信、またそれを基礎とする政策形成の基盤づくりにあります。いま一つの目的は、実践的な内容を持ち、公共の利益に資するような研究の発表・発信の場とすることにあります。従来の学術研究誌にはみられない実践的かつ公共的な性格を併せ持つ、地域発の学術機関誌をめざして発刊したものです。

今回の本誌全体の特集テーマは「ダイバーシティと共生社会にむけて」としています。

近年における個人のライフスタイルや家族のありようが多様化する中、働き方や性別役割分業を始めとして、長きに亘り私たちの意識に根付いてきた考え方を見つめ直す時期にきています。また、東京2020オリンピック・パラリンピックを控え、多文化共生への意識が高まる中、世田谷区においても「世田谷区多様性を認め合い男女共同参画と多文化共生を推進する条例」の制定に向けて取組みが進んでいます。このような社会背景のもと、今回の特集テーマをダイバーシティ（多様性）に選定し、各先生方からさまざまな切り口で論述していただきました。

本号の特集には、世田谷区が大都市東京の一自治体として、今後これらの課題にどう取り組んでいくべきなのかという意図が込められています。

研究者や専門家、自治体職員の方々はもちろんのこと、多くの世田谷区民の方々に本誌を手にとっていただきたいと願っております。さらに、都市社会を研究対象とする全国の若手研究者が投稿論文の本誌への掲載を名誉と考えるような機関誌に育っていくよう願っています。

最後に、今後とも投稿者、読者の方々をはじめ、皆様のご理解ご協力を賜りますようお願いいたしまして、第10号刊行のご挨拶とさせていただきます。